

生薬ニュース

近畿大学東洋医学研究所附属診療所調剤室

シャクヤクとは…

シャクヤク : *Paeonia lactiflora* Pallas (ポタン科)
の根で、日本、中国、韓国が産地です。
下の写真でも示した通り、日本では白色の花を、中国ではピンク色の花がそれぞれ人気で、中国では古くから、牡丹は『百花の王』、シャクヤクは『花の宰相』と呼ばれ親しまれてきました。薬用としてのシャクヤクは、『神農本草経』に収録されて以降漢方の要薬として長らく利用され続けており、観賞用、薬用どちらも栽培による生産が盛んにおこなわれています。

今月のピックアップ

しゃくやく
芍薬

クヤクは『花の宰相(さいしょう)』と呼ばれ親しまれてきました。薬用としてのシャクヤクは、『神農本草経』に収録されて以降漢方の要薬として長らく利用され続けており、観賞用、薬用どちらも栽培による生産が盛んにおこなわれています。

【性味】 酸・苦、微寒

【薬効】 補血斂陰、調経、緩急止血、柔肝、平肝



中国でよく見かける→
ピンク色のシャクヤク

←日本でよく見かける
白いシャクヤク



シャクヤクの成分…

シャクヤクの主要な成分は、モノテルペン配糖体のペオニフロリンのほか、ガロタンニン、安息香酸などが含まれます。薬理作用として、ペオニフロリンには鎮静、鎮痛、抗けいれん、抗炎症、ストレス潰瘍予防、血管拡張（血圧降下）平滑筋弛緩などの作用が確認されています。また、マウスでは、浮腫を抑制したり、また卵巣組織中のプロゲステロン量を増加させ、血中テストステロン濃度を低下させるといった作用も見られます。

中医学では芍薬は『**白芍**』と『**赤芍**』に分けられ、前者の薬能を『補血の常用薬』であるのに対し後者の赤芍は『清熱涼血、活血散瘀、止痛、清肝明目』の薬能を持つといわれています。その差異とはいったい何なのでしょう？

白芍と赤芍について・・・

『白芍』と『赤芍』の区別は、基原植物の違いという説、表皮の有無という説、花の紅白の違いという説、など諸説乱立しています。

流通品を比べると、『赤芍』は白芍に比べ、・痩せて表皮に縦皺が多い、・内部組織に隙間が目立つ、・匂いや味が強い、と区別されています。また、産地の違い（白芍：日本、中国浙江省（せつこう）、四川省（しせん）、安徽省（あんき）、陝西省（せんせい）など（どの地域も北京以南）。赤芍：中国内蒙古自治区など）も区別する参考になります。

日本では通常『白芍』を使用しますが、漢方医学（中医学）では、白芍と赤芍は記述の通り異なった薬効を持つとされ使い分けられるため赤芍も少量ですが国内でも流通しています。

ただ、赤芍は野生種（白芍は栽培）のため、国が定めた規定に外れることも多いようです。

シャクヤクを含む方剤・・・

しもつとう

四物湯（貧血気味で色つやの悪い体質で胃腸障害のない人の、月経不順、冷え症、しもやけ、血の道症、更年期障害など）

しゃくやくかんぞうとう

芍薬甘草湯（急激に起こる筋肉のけいれんに伴う疼痛：こむら返りなど→**効果発現が非常に速い**）

じゅうぜんたいほうとう

十全大補湯（病後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、寝汗、手足の冷え、貧血など）

とうきしゃくやくさん

当归芍薬散（月経不順、月経痛、更年期障害、足腰の冷え性、しもやけ、むくみなど）

にんじんようえいとう

人参養栄湯（病後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、寝汗、手足の冷え、貧血など）

シャクヤクの価格変動・・・

シャクヤクの価格はだいたい4年ごとに上昇と下落を繰り返します。というのも、**シャクヤク**は種まき～収穫までに4年かかります。**シャクヤク**の生産量が増えれば、市場に**シャクヤク**があふれ価格が暴落します。すると生薬農家は生産意欲をなくし作付けを減らしてしまいます。需要に対して供給が減るので価格が上昇することになります。（下図参照）

シャクヤクに限ったことではありませんが、継続的に患者さんに生薬を服用していただくには、供給および市場価格の安定が求められ、そのための仕組み作りが望めますね。

